

循環器内科 後期研修プログラム

1. 概要

わが国における心臓血管疾患は増加の一途をたどっており、これに対応するため診断法や治療法も急速な進歩を遂げつつある。循環器科における後期研修システムは、心血管疾患の総合的な理解から専門性の追求、全人的な医療を提供できる人材を育成することが目的である。また、循環器専門医の資格所得や臨床研究推進能力の育成も目的としている。

2. 研修における到達目標

下記の心血管疾患の急性期・慢性期の診断、検査技術、治療方法を修得する。

- 1) 虚血性心疾患の急性期・慢性期の診療、心臓カテーテル、冠動脈形成術(PCI)
- 2) 心筋症、弁膜症、心不全の診断・治療
- 3) 不整脈疾患の診断・治療、電気生理学的検査(EPS)及びペースメーカー植え込み
- 4) 先天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患、肺血管疾患の診断・治療
- 5) 心臓超音波検査(経胸壁、経食道)、運動負荷試験、冠動脈CTなど

3. 研修期間

卒後臨床研修を終了した医師を対象とし2年間の研修を予定しているが、希望により研修期間の延長を検討する。

4. 所得可能な資格等

日本内科学会認定医、日本循環器学会認定循環器専門医

ただし、循環器専門医は受験資格が6年以上であるため、研修終了後の受験となる。

5. 栗橋病院循環器科の紹介

地域唯一の循環器専門的診療を行っており、周辺から多くの循環器救急患者を24時間体制で受け入れているのが特徴である。このため、急性心筋梗塞や心不全、重症不整脈など緊急性の高い循環器疾患を豊富に経験できる。特に虚血性心疾患のカテーテル治療には力を入れており、PCI症例数も500例/年と県内有数の症例数であるため、カテーテルを修得希望の医師には最適である。なお、院内に心臓血管外科を持たないが、県内外の心臓血管外科と緊急手術を含めた多くの症例で密接な連携をとっている。

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
プログラム名	循環器内科
目 標	循環器専門医
学会認定施設名称	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	6年
初期研修+内科認定医 を含む研修期間	5年
採 用 人 数	2名
医 師 数	8名
専 門 医 数	4名
年 間 入 院 数	997人
年間救急入院数	265人
年間救急車受入台数	192人
年間心カテ件数	850件
年間PTCA件数	511人
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他院院との連携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連携可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	<p>わが国における心臓血管疾患は増加の一途をたどっており、これに対応するため診断法や治療法も急速な進歩を遂げつつある。</p> <p>循環器科における後期研修システムは、心血管疾患の総合的な理解から専門性の追求、全人的な医療を提供できる人材を育成することが目的である。</p> <p>また、循環器専門医の資格所得や臨床研究推進能力の育成も目的としている。当院は虚血性心疾患の入院が多いため、特にカテーテルインターベンションを学ぶのに適した環境である。</p>

消化器内科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

消化器内科疾患全般についての知識と技術を習得し、その知識、技術を実際の臨床に応用できる能力をもつ医師の養成を目指す。また救急疾患を含めた重要な内科疾患の初期治療の習得もあわせて行う。

2. 研修での到達目標

A 一般目標

内科臨床医および消化器病専門医として必要な基礎知識、技術を修得するとともに、豊かな人間性、幅広い見識、社会に貢献する使命感と責任を持ち、患者さんを思いやる温かな心を身につける。

B 消化器内科医としての目標

- 1) 消化器病診療に必要な基礎知識を修得する。
- 2) 消化器病診療に必要な検査、処置を習熟する。
具体的には消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、消化管造影検査、血管造影検査の基本手技を習得し、さらには内視鏡的逆行性膵胆管造影をはじめとするインターベンションを行える技術を身に付ける。
- 3) 患者、家族に病状、治療方針を説明する。
- 4) 病態を把握し、合理的な検査を実施する。
- 5) コメディカルと協力し患者の問題点を解決する。
- 6) カンファレンス、症例検討会に参加し討論する。また年1回の学会発表を行う

C 研修内容（手技を中心とした）

- 1 年 次：スクリーニング目的の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡 腹部超音波 が単独で行えるようになる。指導医のもとで診断目的の腹部血管造影が行えるようになる。
- 2 年 次 以 降：指導医のもとで内視鏡的逆行性膵胆管造影 経皮経肝胆管ドレナージラジオ波凝固療法 内視鏡的胃瘻造設術 内視鏡的消化管ステント留置術を行えるようになる。また消化器悪性疾患に対する化学療法を習得する。

D 指導体制

スタッフ6名で指導するが、基本的に1人に1人指導医をつける

3. 研修期間

原則として4年間。希望があれば延長も可能である。

4. 得資格

日本消化器病学会認定専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医

5. 診療科のPR・実績

卒後12～15年目の医師が中心なため、楽しい雰囲気の中、activeな研修が行る。消化器内科のベッド数は62床、入院患者数は年間約27,203人、年間外来患者数は31,144人。年間検査数は上部内視鏡4,622件、下部内視鏡検査987件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査102件、血管造影検査90件、他様々な検査及び治療を行っている。現在スタッフは常勤6名、非常勤4名。

診療実績 2008 年

食道癌：内視鏡的ステント留置術 8 件

食道静脈瘤：内視鏡的硬化療法 6件 内視鏡的結紮術 15件
悪性胃・十二指腸狭窄：内視鏡的ステント留置術 10件
胃・十二指腸潰瘍：内視鏡的止血術 55件
大腸ポリープ：内視鏡的ポリープ切除術 327件
潰瘍性大腸炎：顆粒球吸着療法 19件
肝臓癌：肝動脈閉塞術 107件 ラジオ波凝固療法 16件 エタノール局注療法 8件
肝炎：エコー下肝生検 15件
慢性C型肝炎：インターフェロン導入 35件
閉塞性黄疸：内視鏡的胆管ドレナージ術 72件
悪性胆道狭窄：内視鏡的胆管ステント術 30件 経皮的経肝胆管ドレナージ術 7件
総胆管結石：内視鏡的胆道碎石術 109件
胆嚢炎：経皮経肝胆嚢ドレナージ術 40件
重症膵炎耐水動注療法 3件
その他：内視鏡的胃瘻造設術 41件 内視鏡的逆行性膵胆管造影 30件 血管造影 23件

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
プログラム名	消化器内科
目 標	消化器病専門医
学会認定施設名称	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設の関連施設
研修期間 (初期研修期間を含む)	6年
内科認定医 を含む研修期間	5年
採 用 人 数	2名
医 師 数	6名
専 門 医 数	3名
年 間 入 院 数	1,382人
年間救急入院数	104人
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他院院との連携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連携可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	消化器内科疾患全般についての知識と技術を習得し、その知識、技術を実際の臨床に応用できる能力をもつ医師の養成を目指す。 また救急疾患を含めた重要な内科疾患の初期治療の習得もあわせて行う。

呼吸器内科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

呼吸器科医としての基本的知識および基本的診療技術の習得を目標とする。

2. 研修での到達目標

研修の基本的な一般目標は、「内科初期研修プログラム(呼吸器内科)」の準ずる。

- ① 一般呼吸器科医として、基本的知識を習得する。
- ② 呼吸器科診療における基本的診療技術、手技を習得する。
- ③ コメディカルと連携し、チーム医療を実践する。
- ④ 医療連携の実際について学ぶ。
- ⑤ 学会、研究会に参加し、最新の知識を習得し、発表、論文投稿を行う。

3. 研修期間

適宜対応する。

4. 取得資格(研修期間中に取得可能なもの)

東京女子医大呼吸器病センターとの連携により適宜対応する。

5. 診療科のPR・実績・症例数等

27床の病床を有し、放射線科、呼吸器外科との緊密な連携のもとに、呼吸器疾患を総合的に診断、治療するための教育体制を整備している。東京女子医科大学の協力病院として、呼吸器内科専門医である指導医の管理のもとに、急性呼吸器疾患から、肺癌、びまん性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、慢性呼吸不全など幅広い症例を経験することが可能である。年間入院患者数は700例を越える。気管支鏡検査は週2回、年間約120例を経験できる。

呼吸器外科、看護師、呼吸療法士、薬剤師、臨床検査技師のみならず、院内他科と連携してのチーム医療を実施しており、複数の合併症を有する呼吸器疾患の診療を学ぶことができる。

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
目 標	呼吸器専門医
学会認定施設名称	日本呼吸器学会認定医制度関連施設
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	適宜対応する。
初期研修+内科認定医 を含む研修期間	5年
採 用 人 数	2名
医 師 数	3名
専 門 医 数	1名
年 間 入 院 数	820人
年間救急入院数	103人
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他院院との連携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連携可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	呼吸器科医としての基本的知識および基本的診療技術の習得を目標とする。

腎臓内科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

腎臓専門医としての基礎知識や病態生理、およびエビデンスに基づいた治療に対する考え方と技術を習得することをめざす。腎臓の生理的役割および構造上の特徴を理解し、高血圧症、水—電解質、酸—塩基平衡の理解、腎炎やネフローゼ症候群の病態の理解および診断・治療、慢性腎不全の病態理解と保存期の治療、慢性透析の導入期の治療（血液透析）そして維持透析期の全身管理など、腎疾患の知識および技能の習得をめざす。

2. 研修での到達目標

問診と患者関係の構築

（腎疾患は慢性疾患であるため、病歴の詳細な聴取の技能、そして良好な患者関係を築くことは重要）

腎疾患関連の診断思考、能力の向上

診断、治療方針、治療経過のプレゼンテーション技術向上（3分でプレゼンを行う）

急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群の治療ができるようになること。

保存期腎不全の管理、患者指導ができるようになること。

急性血液浄化療法の治療ができるようになること。

維持透析患者の全身管理、合併症の治療ができるようになること。

学会における腎疾患関連の発表と学会等への投稿

3. 研修期間

3年

4. 取得資格（研修期間中に取得可能なもの）

腎専門医、透析専門医（ただし、学会加入期間による。）

5. 診療科のPR・実績・症例数等

全身管理の内科であるため、外科的手技よりも診療思考能力の向上を目指している。

希望があれば、東京女子医大腎臓内科への入局も考慮。

6. 特機事項

その他各科ごとに当院と東京女子医大との関連による必要事項がある場合には、その内容についてもご記入ください。

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
プログラム名	腎臓内科
目 標	腎臓専門医
学会認定施設名称	日本透析医学会専門医制度認定施設
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	5年
初期研修+内科認定医 を含む研修期間	5年
採 用 人 数	2名
医 師 数	4名
専 門 医 数	0名
年 間 入 院 数	368人
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他病院との連携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連携可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	腎臓専門医としての基礎知識や病態生理、およびエビデンスに基づいた治療に対する考え方と技術を習得することをめざす。 腎臓の生理的役割および構造上の特徴を理解し、高血圧症、水—電解質、酸—塩基平衡の理解、腎炎やネフローゼ症候群の病態の理解および診断・治療、慢性腎不全の病態理解と保存期の治療、慢性透析の導入期の治療（血液透析）そして維持透析期の全身管理など、腎疾患の知識および技能の習得をめざす。

小児科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

「埼玉県済生会栗橋病院小児科後期研修プログラム」(卒後3年目以降の選択)は、3年間で小児診療の基本を修得するコースです。

特徴は、少人数(各学年2名以内) 精鋭のマンツーマン教育です。小児科のジェネラリストを育成します。

1年目: 病棟と救急外来を研修の基軸とし、小児診療の基本手技、輸液療法や栄養といった基本事項を修得します。個別の講義も行います。毎日の朝回診に始まり夕回診まで、一日中学習です。小児科チームの一員として小児科指導医のみならず小児科専門看護師、その他の小児医療に関する全てのスタッフからも多くを学びます。小児科に留まらず、全職種に渡り病院全体が丸となって教育に当たります。後半には研究会での症例報告を始めます。

2年目: 後輩の指導の任を担いながら自らの研修を続けます。病児ケアの多様性を学びます。技術の修得にも力を入れます。病棟カンファランスや勉強会では主導的立場になります。発展期です。

3年目: 病棟では責任をもって主治医の任を担います。一般外来診療の一部を担当し、一人で病児の診療ができるようになるための術を発展させます。チーフ研修医として後輩の指導に当たります。3年間での経験を研究会や学会で報告します。より専門性のある診療への発展希望者には、東京女子医科大学はもとより他の希望施設との進路の折衝に協力します。勿論、当院スタッフとしての進路も選択枝の一つです。

2. 研修での到達目標

- 単独でも病児が診療でき治療が開始できる。
- 小児診療に必須の基本技術を修得している。
- 体液バランスの正常と異常、輸液療法について習熟している。
- 危険な症状を察知できる。
- 患児・家族・から信頼が得られる。
- スタッフと協調しチーム医療を遂行できる。
- 過去データを参考に自ら視点で経験例を報告できる。
- 後輩医師やコメディカルを教育できる。
- 良医である。

3. 研修期間

3年間

<3年目以降の小児科選択>

当院小児科での勤務継続、東京女子医科大学の小児科・循環器小児科・母子総合医療センター新生児部門・腎臓小児科の4科のどれかを選択して、医療練士として入局して研修することも可能です。医療練士研修修了時には、再度専門領域を選択することができます。

4. 取得資格

研修期間中に経験した症例は、日本小児科学会専門医制度に求められる経験症例提示に利用できます。小児科学会専門医取得のための準備を整えます。

5. 小児科担当部長から一言

埼玉県済生会栗橋病院は、各診療科が互いに協力しながらプライマリ・ケア、地域医療、救急から専門領域の高度医療の実践と若手医師の教育を行っています。当院は東京女子医科大学病院の特定機能関連病院です。小児科は小児医療全般にわたる包括的な医療を提供し、小児

に卑近な疾病についての研修を行う適切な環境を提供します。大学病院との連携では、専門医取得後の専門領域の臨床研修ならびに研究を行う方のために門戸を開きます。当小児科の医師スタッフは常勤3名、非常勤2名ですが、母体となる大学小児科は総数110名を超える小児診療科群のスタッフが、臨床・研究・教育をサポートし、個人のニーズに応じたプログラムを提供できるようにバックアップします。

日本の社会に果たすべき小児科医の役割は、増加することさえあれ減少することはありません。当院小児科では、かけがえのないこどもの現在と未来をまじめに考え、自分の仕事に自信と誇りを持って働くことのできる臨床医の育成を目指します。多数症例の臨床経験を願われる方、一緒に学びましょう。

6. 診療概要

【Home Page: <http://www.saikuri.org/> (診療科案内⇒小児科 に入ってください)】

入院児のための小児科定床数は15床。但し、病棟(本館3階)を共有する脳神経外科とのバランスにより病床数は変動性です。小児科は紹介型の高回転の入院加療を主軸とする診療形態を目指します。積極的な診療所への紹介・逆紹介を推進することで外来患者数を紹介型の少人数とし、地域の診療所から依頼のある患児達がスムーズに入院加療できることを目指しています。院是の「心」を忘れる事無く、入院加療を必要とする患児を中心に、地域の患児家族からはもちろんのこと医師からも信頼される医療を施すべく邁進しています。地域(埼玉県東部第1地区)の小児夜間急病診は、当該地区の2病院が持ち回りで担当する小児2次救急輪番制度(平成12年に全国で7番目の開始)を維持しています。

診療科の特徴の一つである、小児科専属の病棟ナース(Cチーム15名)による小児科外来との連動勤務体制があります。このユニークなシステムはスタッフのみならず患者家族からの評判も良好です。看護師・事務職員・医療秘書・医師が一体となった医療を提供します。

朝、夕の定時回診はもとより、病棟カンファランス、看護師を交えた勉強会、当科主催の勉強会として年3回の埼玉東部小児懇話会を継続運営しています。

7. 研修者の評価

小児科での研修内容については、小児科研修責任者:白髪宏司(小児科部長、臨床研修管理委員会委員長、副院長)が評価します。研修者はそれぞれが到達目標を定め、その達成度を定点毎に振り返ることにより評価します。

8. 問い合わせ先

小児科部長・副院長:白髪 宏司、TEL0480-52-3611、FAX0480-52-0954
e-mail: hiroshiraga@aol.com (問い合わせはお気軽にどうぞ)

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
目 標	小児科専門医
学会認定施設名称	
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	5年
採 用 人 数	2名
医 師 数	3名
専 門 医 数	2名
年 間 入 院 数	691人
年間救急入院数	684人
年間救急車受入台数	91人
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他院院との連携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連携可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	「埼玉県済生会栗橋病院小児科後期研修プログラム」(卒後3年目以降の選択)は、3年間で小児診療の基本を修得するコースです。特徴は、少人数(各学年2名以内) 精鋭のマンツーマン教育です。小児科のジェネリストを育成します。

外科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特長

初期臨床研修を発展させ、適切な臨床的判断能力と問題解決能力の修得および手術を適切に実施できる能力の修得を追求します。さらにコメディカルと協調し、診療現場においてチームリーダーとなれる、意識の高い臨床医を目指します。

2. 研修での到達目標

《手術到達目標》

- 1年目 鼠径ヘルニア根治術、虫垂切除術、下肢静脈瘤手術、痔核切除術などを経験し、基本的な外科手術手技を身に付ける。後半には腹腔鏡下胆嚢摘出術、胸腔鏡下肺部分切除術、乳腺切除術、胃切除術、大腸切除術を経験する。
- 2年目 急性腹症の手術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、胃切除術、大腸切除術などの多くの症例を経験する。内シャント造設術を経験し、血管吻合の手技も修得する。2年目終了時点で日本外科学会専門医制度で規定された経験症例数を達成することを目指す。
- 3年目 腹腔鏡下虫垂切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、胃切除術、大腸切除術などの難易度の高い症例を経験し、さらに手術手技を修練する。一般外科・消化器外科の大部分を経験することができる。
- 4年目 肝切除術、膵頭十二指腸切除術なども経験し、外科医としてひとり立ちできるようにする。
- 5年目 腹腔鏡下大腸切除術、胸腔鏡下肺切除術などの鏡視下手術を経験する。日本外科学会専門医資格を取得し、医療チームの一員として責任をもって一般外科・消化器外科・呼吸器外科診療を担当し、研修医などの後進の指導を行うことのできるレベルを目指す。

3. 研修期間

研修期間は原則5年間。

必要に応じて、研修期間および研修終了後の進路について相談に乗ります。

4. 取得資格（研修期間中に取得可能なもの）

日本外科学会専門医

5. 診療科のPR・実績・症例数等

栗橋町自体は小さな町ですが、診療圏が広域で近隣の市町村も含まれるため、症例数は年毎に多くなっています。最近は大腸、胆嚢、肺の鏡視下手術も増加しています。また、開院時より県の腎移植協力病院に指定され、生体腎移植および死体腎移植も行っており、多様な疾患に対応できるように体制を整えています。当科は患者本位の医療を目指しており、根治性を追及した手術だけでなく、低侵襲手術、化学療法、緩和ケアなど患者のQOLも考慮した治療を選択しています。守備範囲が広く、地域の中核病院として地域のニーズに応えた質の高い医療を提供すべく、全力をあげて努力しています。このような背景のため、一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、腎不全外科、鏡視下手術など幅広い手術を経験し習得することができます。

2008年の手術症例数は762例（全身麻酔574例、腰椎麻酔・硬麻14例、局所麻酔・仙麻174例）です。主な内訳は、胃:48例（幽門側胃切除術25例、胃全摘術17例、腹腔鏡下幽門側胃切除術4例）、大腸:120例（結腸切除68例、低位前方切除術10例、直

腸切断術 8 例、腹腔鏡下大腸切除術 9 例)、肺・縦隔：56 例(肺癌葉切除術 17 例、腹腔鏡下嚢胞切除術 18、縦隔腫瘍摘出術 6 例)、乳房：47 例(乳房温存 17 例、胸筋温存 16 例)、肝・膵・脾：109 例(腹腔鏡下胆嚢切除 86 例、肝切除 8 例、膵頭十二指腸切除術 2 例、膵体尾部切除 2 例)、鼠径ヘルニア根治術 102 例、虫垂切除術 42 例、ブラッドアクセス手術 115 例、下肢静脈瘤手術 10 例です。

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
目 標	外科専門医
学会認定施設名称	日本外科学会外科専門医 制度修練施設 呼吸器外科専門医認定機 構基幹施設関連施設 日本胸部外科学会認定医 認定制度指定施設
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	7年
採 用 人 数	2名
医 師 数	7名
専 門 医 数	4名
年 間 手 術 件 数	773件
年 間 全 身 麻 酔 件 数	571件
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他 院 と の 連 携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学への連 携可
初 年 年 収 概 算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	初期臨床研修を発展さ せ、適切な臨床的判断能 力と問題解決能力の修得 および手術を適切に実施 できる能力の修得を追求 します。 さらに、コメディカルと協 調し、診療現場において チームリーダーになれる、意 識の高い臨床医を目指しま す。

脳神経外科 後期研修プログラム

脳神経外科後期研修カリキュラム

日本脳神経外科学会 A 項施設

基幹施設: 東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科

後期研修プログラム責任者: 脳神経外科担当部長 鰐淵博 (日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医)

1. プログラムの概要及び特徴:

幅広い脳神経外科の知識と技量を身につけ、豊かな人間性と協調性を養い、脳神経外科医として医療全体に貢献することを目標とする。

2. 研修到達目標:

- ① 脳神経外科診療に必要な基礎知識を習得し、臨床に応用する。
- ② 社会人として病院ならびに医局の規則を守ることができる。
- ③ コメディカル(上級医師、同僚医師、他科医師、看護師、検査技師など)と強調し診療を行うことができる。
- ④ 患者様やその家族と良好なコミュニケーションをとることができる。
- ⑤ 医療安全管理の基本を理解し、実践できる。
- ⑥ 医療記録(診療録、手術記録、病歴要約、診断書等)を遅滞なく正確に記載できる。
- ⑦ 学会に参加して最新の医療知見を取得し、発表、論文の投稿を行う。

脳外科後期研修年次別プログラム

- 1 年次 救急患者の管理、気管内挿管、IVH 等救急処置
CT、MRI、脳血管撮影の画像診断、術前術後管理、外科手技(縫合処置、気管切開)の習得、腰椎穿刺、脳室及び腰椎ドレナージ、脳室腹腔短絡術
- 2 年次 開頭血腫除去術、急性硬膜下、外血腫除去術等基本的手術手技の確立、脳血管撮影手技読影、多発外傷患者の管理、頭頸部外傷患者の処置、転移性脳腫瘍患者の管理、髄膜炎、糖尿病、肺炎等合併症の管理
- 3 年次 脳動脈瘤、脳腫瘍、頸椎疾患患者の手術手技の習得及び管理、血管内手術患者の管理、脳動脈瘤、脳腫瘍患者及び家族への術前術後病状説明、外来診察での患者接遇、学会発表、論文作成の経験

4 年次 脳動脈瘤、脳腫瘍患者管理技術の向上及び主治医として系統的治療方針の決定、専門医試験準備及び研修医の指導

3. 研修期間

初期研修 2 間終了後の最低 4 間を研修期間とする。

4. 取得資格

4 年間の後期研修終了後、日本脳神経外科学会専門医受験資格が得られる。

5. 診療科の特徴

- 1) 破裂脳動脈瘤を含む急性期脳卒中症例、脳腫瘍、脊椎疾患、脳血管内手術を経験し、脳神経外科手術の術者として独立できるトレーニングを積むことができる。
- 2) 手術実績：急性期脳卒中、脳腫瘍、血管内手術を中心に、年間約 140～150 例。
- 3) チーム医療を実践し、脳神経外科専門医 2～3 名が指導に当る。
- 4) 学会、研究会での発表を経験し、論文にまとめる思考過程、作業工程を通して科学的な方法論に基づいた医療を実践する訓練を行う。

6. 特記事項

臨床教育プログラム

手術日：月、火、水(血管内手術)

症例検討会：週 1 回

病棟回診：午前午後 2 回

神経放射線検討会：月 1 回

抄読会：月 1 回

病診連携紹介カンファレンス：年 2 回

埼玉県脳神経外科懇話会：年 3 回

脳神経外科関東地方会：年 4 回

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
目 標	脳神経外科専門医
学会認定施設名称	日本脳神経外科学会専門 医指定訓練施設 日本脳卒中学会専門医認 定制度研修教育病院
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	6年
採 用 人 数	2名
医 師 数	3名
専 門 医 数	2名
年間手術件数	126件
年間全身麻酔件数	83件
単 独 施 設 で プログラム完結	—
他院との連携で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学と連携 可
初年年収概算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	幅広い脳神経外科の知 識と技量を身につけ、豊 かな人間性と協調性を養 い、脳神経外科医として 医療全体に貢献すること を目標とする。

泌尿器科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

当科では尿路悪性腫瘍、排尿障害、結石治療を主に行っている。特に悪性腫瘍については年間前立腺癌新規患者 70 名程度が受診し、県下でも有数の症例数を誇る。

2. 研修での到達目標

研修期間中に一般泌尿器科として必要な診断、検査、手術についての基本的事項を学び、正確な診断と診断のための検査の流れを把握、実行できることを目標とする。

3. 研修期間

4 年間の研修期間内に前半は主に経尿道手術の術者として技術を学び、後半は腎摘術、前立腺摘除術など開腹手術の術者としての技術、経験を学ぶ。

4. 取得資格

日本泌尿器科学会の専門医に必要な受験資格

5. 診療科の PR・実績・症例数

2008 年全手術数 328 例 (ESWL 含む) であり、主な日本泌尿器科学会の認定手術として腎癌手術 11 例、腎盂尿管腫瘍 3 例、膀胱全摘術 4 例、前立腺全摘術 4 例、経尿道手術約 100 例 (TUR-BT50 例、TUR-P22 例他) を行っている。

6. 特記事項

当院では前立腺癌の手術において性機能温存を心がけ、神経温存手術を行っている。尿道バルーン抜去後の尿失禁も少ない。また体外衝撃波結石破碎装置を導入しており、特に結石治療に力を入れている。

地 域	関東
支 部 名	埼玉県済生会
施 設 名	栗橋病院
目 標	泌尿器科専門医
学会認定施設名称	日本泌尿器科学会専門医 教育施設
研 修 期 間 (初期研修期間を含む)	4年
採 用 人 数	2名
医 師 数	3名
専 門 医 数	3名
年 間 手 術 件 数	190件
年 間 全 身 麻 酔 件 数	154件
単 独 施 設 で プ ロ グ ラ ム 完 結	—
他 院 と の 連 携 で 完 結	○
連 携 の 詳 細	東京女子医科大学との連 携可
初 年 年 収 概 算 (当直手当を含む)	650万円
特 徴	当科では尿路悪性腫 瘍、排尿障害、結石治療 を主に行っている。 特に悪性腫瘍について 年間前立腺癌新規患者70 名程度が受診し、県下で も有数の症例数を誇る。

眼科 後期研修プログラム

1. プログラムの概要及び特徴

眼科の診断治療に関する基礎的な知識と技術を習得し、特に地域基幹病院における頻度の高い疾患に関しては、一人で外来診療がこなせる能力を持つ医師を養成することである。特に視覚は情報の 90%を担う重要なものである。眼科医として、患者様の生活の質の向上に貢献できるように、臨床診療を通して、患者様の心までケアできる医師を育成したいと考えている。

2. 研修での到達目標

眼科専門医受験資格を取得できること(日本眼科学会専門医制度眼科研修医ガイドラインによる)。また毎年 6 月に行われる専門医試験に合格すること。

3. 研修期間

眼科入局後 4 年修了時に専門医受験資格となる。当院もしくは東京女子医科大学眼科学教室(堀貞夫主任教授)4 年以上在籍が必要。

4. 取得資格(研修期間中に習得可能なもの)

なし(上記理由から)

5. 診療科のPR・実績・症例数など

当院は東京女子医科大学病院の特定機能関連病院です。全科が東京女子医科大学の医局派遣であるために、大学レベルでの治療を、各科が協力しあいながら友好的にできることが特徴である。特に眼科は糖尿病や高血圧・動脈硬化合併の眼底疾患や、小児科、脳外科との連携は欠かせない。平成 18 年度の手術実績は 550 件、レーザー治療は 600 件。

6. 特記事項

指導体制は、眼科経験 5 年～6 年の眼科専門医を取得直前あるいは後の医師が、日常診療に関しては 1 対1で直接指導にあたる。手術教育や専門医受験資格に必要な学会発表、論文執筆などの臨床研究に関しては、大学講師であり国内外での発表・論文投稿の経験豊富な部長が指導にあたる。

施設名	栗橋病院
プログラム名	眼科
プログラムの目標専門 医の名称	眼科専門医
取得している学会認定 研修施設名称	眼科専門医研修施設
研修期間	下記特徴を参照
採用人数	1名
診療科医師数	3名
診療科指導医数	
専門医医師数	1名
診療科年間入院数	
診療科年間手術件数	332件
診療科年間全身麻酔件 数	0件
年間分娩件数	
単独施設でプログラム完 結	
他院との連携で完結	○
連携の詳細	東京女子医科大 学との連携可
初年年収概算 (当直を含む)	650万円
プログラムの特徴	眼科の診断治療に関する基礎的な知識と技術を習得し、特に地域基幹病院におおける頻度の高い疾患に関しては、1人で外来診療がこなせる能力を持つ医師を養成することである。特に視覚は情報の90%を担う重要なものである。眼科医として、患者様の生活の質の向上に貢献できるように、臨床診療を通して、患者様の心までケアできる医師を育成したいと考えている。